

令和5年度第1回北区地域公共交通会議  
議事要旨

◇ 日時

令和5年10月27日（金）午前10時から

◇ 場所

赤羽文化センター3階 第1視聴覚室

◇ 会議次第

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 委員紹介

4. 議題

（1）北区コミュニティバス（浮間地域ルート）の運行計画（案）

（2）北区コミュニティバス（王子・駒込及び田端循環ルート）  
変更運行計画（案）

5. 報告事項

デマンド型交通実証実験の検討

6. 閉会

◇ 出席委員

20名（敬称略・順不同）

会長 久保田 尚

委員 下山 豊、大前 孝太郎（代理：中林 徹）、小松 栄美子、  
三好 常枝、若田 瑞穂、鈴木 健史、佐藤 智彦、木原 光資、  
地宗 知子、小池 毅、久我 恒夫、鎌塚 俊充、池田 勝彦、  
藤平 忠晴、竹内 紀、時任 一郎、橋本 孝、松田 秀行、  
寺田 雅夫、岩本 憲文

事務局 交通事業担当課

◇ 議事内容

1. 開 会

- 事務局より開会宣言

2. 会長挨拶

- 会長より挨拶

3. 委員紹介

- 事務局より委員紹介

4. 議 題

- 質疑応答

(1) 北区コミュニティバス（浮間地域ルート）運行計画（案）について  
（委員）

ルートについて、弊社の路線と重なる部分があるが、協議をした結果、このルートになったと認識しており、本件について、現段階で反対はしない。同意する。しかし、北区地域公共交通計画においては、もう次のルートが出ている。

このルートについて、既存路線がある中で、ルート、バス停、運賃などが競合している認識である。冒頭に会長が仰った通り、公共交通は、非常に危機的状況に置かれており、今後、持続性が求められる。現行計画のとおり進めても、持続性につながるとは考えていない。

コミュニティバスという手段も含めて、計画の見直しを求める。今回、デマンド型交通実証実験の検討が報告事項にあるが、これが見直しの一環となり、最終的には計画の見直しにつながることを見据え、注視していきたいと考える。

（事務局）

いただいた意見について、現行計画に記載のある赤羽西地域ルートに対する競合の懸念という意見だと認識している。現行計画には、社会経済の情勢や地域の動向等も踏まえ、柔軟に計画を見直すと記載をしている。運転手不足や既存の交通事業者の状況等を加味し、検討していく。

(2) 北区コミュニティバス（王子・駒込及び田端循環ルート）変更運行計画（案）について

～ 意見なし ～

## 5. 報告事項

- 質疑応答

デマンド型交通の実証実験の検討について

(会長)

デマンド型交通について、ご存じでない方のために、概要を説明していただきたい。

(事務局)

デマンド型交通は予約制の交通モードである。位置付けはバスとタクシーの間であり、利用者が多くない地域において、小型車両を採用して運行することにより、経費が圧縮され、低コストで利用者にきめ細やかな移動サービスが提供可能という利点がある。

区内にはバスの運行が難しい箇所があり、そのような箇所でデマンド型交通を試験的に運行し、効果検証のための検討を進めていきたいと考えている。

(委員)

バスが運行できない地域という説明があったが、今後、検討を進めるにあたり、現状でこの地域の方が何を使ってどこに移動しているのかという実態を把握したうえで、課題を設定していただきたい。

(事務局)

地域のニーズについて、資料6に示す2地区を選定候補地とし、町会、自治会など地域の方の意向を伺いながら、運行形態等を検討していく。

## 6. 閉 会

- 事務局より、閉会宣言

以上